

「学び」の環境がここにあります

創立121年、この伝統ある為桜学園で一緒に学びましょう

学校沿革

明治30年4月 茨城県尋常中学校下妻分校
33年4月 茨城県下妻中学校
昭和23年4月 茨城県立下妻高等学校
24年4月 茨城県立下妻第一高等学校
平成 9年4月 創立百周年
29年4月 創立百二十周年

教育方針

- 生徒一人一人の学力の向上を図るとともに、社会に有為な人材の育成に努める。
- 特別教育活動を重視し、生徒の心身の調和的発達を図る。
- 生命尊重の立場から安全教育・健康教育の推進に努める。
- 愛校心を涵養し、本校伝統の尊重とその発揚に努める。



文武不岐 ～人間力を磨く～

本校は、学習と部活動との両立を積極的に推奨しています。高校時代は何でも吸収できる感受性豊かな時期です。友と一緒に目標に向かって取り組む経験を通して、達成感や感動を味わうとともに、忍耐力や協調性などの人間力を磨きましょう。



生徒会長 3年 岩瀬 美結（結城南中学校出身）

下妻一高は、昨年120周年を迎えました。「為桜学園」という愛称で親しまれ、体育の準備体操として行う「為桜体操」や、勝負事に勝利した際に肩を組み合わせる歌う「為桜の丘」など、さまざまな伝統が途絶えることなく今日まで受け継がれています。

学校行事も数多く、特に兄弟校である水海道一高との運動部対抗戦、いわゆる「定期戦」は、80年以上続く一大行事です。毎年白熱した戦いが繰り広げられ、両校生徒だけでなく、卒業生や地域の方々とも一丸となって行われます。戦いに勝利し、生徒全員で歌う「為桜の丘」は何物にも代え難い瞬間です。そして、下妻一高の最大の魅力は、学校全体の雰囲気であると思います。生徒一人ひとりが「文武不岐」という言葉のもと、勉学・部活動・学校行事に励み、先生方は私たちに真剣に向き合って支えてくださいます。

下妻一高ならきっと皆さんのたった一度の高校生活を思い出あふれる充実したものにしてくれるでしょう。ぜひ下妻一高と一緒に高校生活を送りませんか。在校生一同、心からお待ちしています。

「為桜学園」



（上記マークは中村不折作）



「為桜学園」の名は学園の春を飾る桜花にちなみ、藤田東湖作「文天祥正気の歌に和す」の一節「^{ひら}発いては^{ぼんだ}万葉の桜と為る」よりとられたもので、本校草創期の理念として明治34年に体育会を為桜会と命名して以来、脈々と本校に継承されてきました。本校の桜も、老木の数こそめっきり少なくなりましたが、爛漫、その清潔の品、花王の格は古くから本校の象徴とするところであり、「為桜」は衆芳を抜かんとする生徒の心意気「為桜魂」を示すものです。

左のマークは、明治39年、長塚節の紹介で、洋画家・書家として知られる中村不折が作図したもので、現在も本校のシンボルマークとして広く使用されています。（「為桜」を囲んで「木二の嶽」「大瀧の水」「万葉の桜」が「百鍊の鉄」の刀の鐔の中に見事に配されています。）